

ドバイエアショー2023 視察報告

1. はじめに

2年に一度（奇数年）にアラブ首長国連邦のドバイ近郊で開催されているドバイエアショー2023に、ドバイエアショー事務局より招待があり訪問したので以下報告する。

2. ドバイエアショー2023の概要

正式名称：Dubai Airshow 2023

開催日程：2023年11月13日（月）～17日（金）

開催場所：DWC（Dubai World Central）空港（ドバイ近郊）

事務局（Organizer）：Tarsus Aerospace社

Advisory Board：

UAE政府関係者、現地企業、欧米企業の現地事務所より構成

事務局の速報値として、今回のエアショー

には135,000人以上の来訪者が148国よりあり、1,400以上の出展、最大192機の航空機展示があったとのこと。

3. 展示の概要

会場の入場ゲート入った正面にはUAEの航空機産業の会社が大きなブースをだしていた。そのひとつとして、2018年9月の貿易会議で訪問したMUBADALA社が、同社が有する複数の航空機産業の子会社（Strata Manufacturing社やTurbine Services and Solutions社など）の展示を行い、製造やメンテナンスの能力をアピールしていた。UAEの宇宙分野への取組を示す展示も大きなスペースを割いて行われていた。また、大きな会場内にカンファレンススペースもあり気軽に立ち寄れるレイアウトとなっていた。



MUBADALA社の展示ブース



会場内のカンファレンススペース

日本からは、防衛装備庁（ATLA）が打合せ場所を設けていたほか、川崎重工業㈱とボーイング社のスタートアップコンペティ

ションに合格して同社の支援を受けて出展したNABLA Mobility社の二つの出展があった。NABLA Mobility社はエアラインにおいて飛行

計画の合理化（最適化）をおこなうための計
量モデルの作成を、AIを活用しおこなうプロ

グラムを提供する事業を行っている。



ATLA打合せ場所において後藤雅人空将（装備官 航空担当）とともに

各国の出展状況は、イタリア、ドイツ、ベルギー、オーストラリア、チェコなどは、SMEs支援の形式での出展であった。アジアでは中国が大きく出展し、韓国もKAI (Korea Aerospace Industries, LTD) が出展、そのほかにパキスタン、インドの出展もあった。これら4か国はデモフライトも実施していた。シンガポール、マレーシアの出展はなく、台湾は部品製作企業1社の出展があった。イスラ

エル企業（IAI社）はパビリオンがあったが、初日はクローズされており、二日目より担当者が少しいるのみで、製品などの展示は無かった。トルコはUAEの代理店（International Golden Group社）のブースに製品の縮小スケールモデルがあり、ロシアは別棟にブース展示を兼ねたシャレーを設け、航空機の地上展示を行うとともにデモフライトも実施していた。



（左）展示会会場メインゲート



（右）UAEシャレーと航空機展示スペース

4. エアショーでの主な面談

(1) AIA（米国航空宇宙工業会）

面談者 Dak Hardwick氏 対外担当 Senior Vice President

JA2024でのAIA会長の特別講演の調整のお礼とともに、日本での調整状況を報告した。航空機の開発や運用に際し用いられる情報運用の共通基盤であるSシリーズについては事務局とMOU締結作業を始めていることを伝え、必要に応じて支援をお願いする可能性も伝えた。AIAはオーストラリアの工業会との関係構築をオーカス（AUKUS）の関係で今年は進めていた。インドの工業会との関係構築には言及がなかった。

AIAがドバイエアショー参加にサポートシャーレ形態で参加する理由は、米国軍用機の乗員・メカニックなどの支援のほか、米国政府関係者の参加支援（打ち合わせ場所の提供など）のためとのことであった。個別企業は、大手は自前で出展準備を行い、中小は州単位でコールマン（代理店）経由での出展とし、AIAは企業出展には直接的には関わっていないとの説明であった。

(2) GIFAS（フランス航空宇宙工業会）

面談者Frederic PARISOT専務理事、Four Sylvain 対外担当責任者（VP）

新任専務理事に、GIFASとSJACの関係や日本の航空機産業について質疑を交えて説明を行う機会を得た。JA2024へのフランス企業（特に中小企業）の出展については、出展希望の募集をGIFAS経由既に始めており、具体的な出展支援は在日のビジネス フランスや商工会議所を通じて行う計画とのこと。なお、フランス企業はコロナ禍での人材縮小もあり、再び人材確保に取り組んでいるが特にメカニックの確保に苦労しているとのこと。

(3) ADS（英国航空宇宙工業会）

面談者Ms. Connie Mathisen（Director International Business development）、Ms. Julie Mears（Assistant Director, Farnborough International）

ファンボローエアショーへのSJACの申し込みにつき、お礼があった。JA2024については、ADSの申し込みに対しお礼を伝えた。ADSは現在参加希望を募っているところであり、この機会に日英の関係を深めるようなイベントを行えればと考えているとのこと。

ADSのブースにはSMEsが多いので、彼らの今回の参加目的について質問をおこなったところ、情報収集と実際の業界の動きを感じてもらうことが目的とのコメントがあった。

(4) ドバイエアショー事務局（Tarsus Aerospace社）

面談者Mr. Anton Long / Sales Manager（アジア地区担当）

パビリオンやブース関係はTarsus Aerospace社が担当し、UAE政府関係者などで構成するAdvisor Boardがエアショー運営の方針などを決めている。2025年のドバイエアショーのパビリオン販売も開始している。ブースパートナーのような協力関係にあるエアショーは、バリ（インドネシア）とバーレーンの2つのみである。

AAM（Advanced Air Mobility）を実際に飛行させる計画もあったが、UAE当局より現時点では危険とのこと許可がでなかったが、2025年のエアショーでは飛ばせると思う。エアショーに対しての政府支援は様々ある。特に軍関係の調整や招待は国同士でできないので支援いただいている。会場内のカンファレンスにおける講演者については基本英語での対応（スピーチ）であり、重要な方々には旅費などを含めた招待を行うこともある

とのこと。

SJACとしてはシンガポールエアショーも視察の上、今後の参加形態について対応を決めていくことを伝え、ドバイエアショー2023の公式結果レポートを後日に送ってもらうこととした。

5. 所感

エアショーでは、完成品メーカーの売り込みが盛んにおこなわれている印象であった。

欧州の完成品メーカーはサプライチェーンも連れてきており、多面的な関係拡大を試みているように感じられた。貿易会議（2018年9月）での訪問先であるStrata Manufacturing社とTurbine Services and Solutions社がMUMADALA社ブース内で大きく出展しており、訪問時と比べてオフセットプログラム等を利用して業容を拡大していることが印象的であった。

[(一社) 日本航空宇宙工業会 国際部部长 羽中田 実]